



2012. 9月発行 No.68

東北森林管理局 藤里森林センター

〒018-3201

秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3

Tel 0185-79-1003 Fax 0185-79-1005

eメールアドレス t-fujisato@rinya.maff.go.jp

自然の素晴らしさを知った 下刈り、枝打ち作業は大変だ

8月28日、秋田県立能代工業高等学校の2年生の生徒12人と引率の先生2人が当センターを訪れ、森林教室・林業体験で自然のはたらきなどを学習したり、下刈り・枝打ちなどの保育作業を体験しました。

残暑厳しい中、午前中は2班に分かれ、引率の当センター職員から自然観察教育林(岳岱)で岳岱の生い立ち、ウッドチップ舗装の構造やユニバーサルデザインで造られた新コースの概要について説明し、散策コースに向かいました。

ブナやヤチダモ、キハダなどそれぞれの樹木の特性や用途を説明し、中でもキハダの説明では実際にキハダの皮(当センターで用意した物)をなめてもらい、生徒たちからは狙いどおりの反応を得ることが出来ました。講師から「この木の年齢は」「この木の名前は」等の質問に思いおもいに数字をあげたり、知ってる限りの木の名前を言ったりと良く話を聞いてくれる生徒たちに感謝です。

午後からは林業体験を行いました。所長補佐から下刈り・枝打ちの必要性・適期・作業方法を説明した後、生徒全員で下刈りに挑戦し、続いて一人ずつ枝を数本切ってみました。



モリアオガエルの池で何かを発見



炎天下の中で枝打ち体験中

最後に感想発表があり、「自然のすばらしさを知った。ブナ林の湧き水を飲んだり、400年ブナを見せてもらったりして、とても楽しかった」「作業は大変でしたが、下刈りや枝打ちという貴重な体験をさせていただき、一生忘れられない思い出」などと若者らしい素直なあいさつに続き、引率の先生から「ここ2年間は雨に降られて実施できなかった林業作業が体験できて有意義だった。この経験をこれからの進路や学校生活に活かして欲しい」とまとめの言葉がありました。今後も林業の大切さと森林の素晴らしさを感じてもらえるよう取り組んでいきます。

残暑の中でも元気いっぱい！

9月12日（水）、大館市立城西小学校の5年生児童56名が、森林環境学習の一環としての体験学習を実施するため、当森林センターを訪れました。開会式をセンターで行ったあと、バスで岳岱自然観察教育林に向かい、センター職員の案内により5班に分かれて体験学習を兼ねた散策を行いました。

当日は、まだ残暑が厳しい中ではありましたが、天候も良く林内を歩くには絶好の散策日和となりました。

林内では、倒木や自然枯死によってできた新たな空間にブナの種子が落ちて、芽が出てたっぷりの日光を浴び成長していくことで、ブナが世代交代していくことや、白神山地にはブナだけでなく、シナノキやヤチダモといったブナとは違う幹の肌模様や葉っぱの形をしたいろいろな樹種があることを見たり触れたりして学びました。

また、センター職員が用意したキハダ内皮を実際になめ、キハダの皮を存分に味わいながら薬用（胃腸薬）に用いられることを学んだり、ブナの実が熊など山の動物たちの大事な栄養源になることを知った子供たちは、我先に「家族にもあげたいからもっとちょうだい」などと大変人気があり、持っていたブナの実が全部なくなる班もありました。

散策途中には、歩道に張り出しているブナの根を保護するためにウッドチップを撒いてもらう作業も行いました。丁寧にウッドチップを撒いてくれたおかげで、歩道も大変歩きやすくなり子供たちも充実した表情を浮かべていました。



キハダの味はどんなかな？



ウッドチップを散布

岳岱散策後、バスで移動し昼食はくるみ台森林スポーツ林で食べました。昼食後も元気いっぱい林内を走り回ったり、昆虫を見つけたりしながら思いおもいに自然の中を楽しんでいました。

最後に閉会式では児童から「クロサンショウオが見られてよかった」「400年ブナが大きくて凄かった」「山を歩いて疲れたけどいろいろな木を知ることができて楽しかった」などの感想をいただきました。

今後も多くの子どもたちに少しでも森林の大切さ、自然の素晴らしさを感じてもらえるよう取り組んでいきます。

今後の行事予定

10月20日 第3回イベント 白神山地での紅葉狩り（応募締切10月4日）

※10月20日～21日 藤里町民祭 白神ふるさと祭り